TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

神さまの知恵　自分の晩餐
コリントの信徒への手紙一 11:17-34

2025 年 6 月 14 日 & 15 日
余沢　武 牧師

I. はじめに
こんにちは。2019 年に新しい礼拝堂の建設を開始するために「インパクト・ビルディング・プロジェクト」を立ち上げました。それ以来、私たちは新型コロナウイルスのパンデミック、人員構成の変化、建築基準法の改正、そして物価の高騰を経験しました。現状を見直した上で、来月には変更された計画について発表を予定しています。神が私たちを導くようにお祈りください。

父の日おめでとうございます。父親たちを称え、祈りを捧げましょう。お父さんの皆さん、どうぞお立ちください。祈りましょう。

第一コリントでは、パウロは教会の分裂、不道徳、偶像崇拝、そして頭を覆うことの習慣について語っています。今日は、パウロが「教会の集まりが害をもたらす場合」という別の問題に取り組むのを見ていきましょう。

II.　自分の晩餐
(1)悪い結果を招く集まり
第一コリント 11:17-18 を見てみましょう。
「しかし、次のことを指示するにあたって、私はあなたがたを褒めるわけにはいきません。あなたがたの集まりが、良い結果ではなく、悪い結果を招いているからです。第一に、あなたがたが教会に集まるとき、互いの間に分裂があると聞いており、私もある程度はそれを信じています。」

昔の話ですが、当時同僚だった方が友人と 2 週間旅行するために休暇を取りました。彼女が戻ってきた際に、旅行はどうだったか聞きました。「最悪だった。」と彼女が言いました。旅行の途中に彼女は友人たちと別れて別行動することになりました。実際、彼女は友人関係を辞めたと教えてくれました。

人と時間を共にすることで、人間関係がより良くなることがあります。しかし、悪化させることもあります。コリントの人々はまさにその状況を目の当たりにしていました。礼拝のために集まっていました。しかし、互いの絆を深めるどころか、かえって分裂してしまいました。

19 節「あなたがたの間で、誰が適格者かはっきりするためには、分派争いも必要でしょう。」
パウロは、教会で「誰が適格者かはっきりするためには、分派争いも必要でしょう」と述べています。

「適格」という言葉は、金を精製するために使われています。金は通常、他の物質と混ざっていますが、火によって精製することによって「純金」を得て、「適格」になります。パウロがここで語っているのは、神は分裂を用いて私たちを精製し、成熟したクリスチャンを識別できるようにすることです。
教会内で分裂が生じるのは、どちらかのグループ、または両方のグループが成熟していないためであることが多いですね。
①未熟なグループは、多くの場合、噂話や批判をして、ほかのグループがいかに間違っている、違う、性格が悪い、社交性が低い、非常識、地位が低い、才能がない、無知であることを言って、距離を取ろうとします。
②一方で、「適格者」は、噂話や批判はせず、自己防衛もしません。神に守ってもらいます。パウロは、「適格者」が誰かわかると言います。

(2)「主の晩餐 vs あなたの晩餐」
では、彼らはどのような分裂を経験していたのでしょうか？
20-22 節「しかし、それでは、一緒に集まっても、主の晩餐を食べることになりません。食事のとき、各自が勝手に自分の食事を済ませ、空腹な者もいれば、酔っている者もいるという始末だからです。あなたがたには、食べたり飲んだりする家がないのですか。それとも、神の教会を軽んじ、食事を持参しない人々を侮辱するのですか。あなたがたに何と言ったらよいでしょう。あなたがたを褒めるべきでしょうか。この点については、褒めるわけにはいきません。」
書かれている通り、食事は彼らの礼拝の一部となっていました。しかし、パウロが言うに、問題は、彼らの

食事は「主の晩餐」ではなく、「自分たちの晩餐」、つまり各自「自分の夕飯」であることでした。

コリントにある典型的なローマの家には、9から10人が座れるダイニング、そして、より多くの客が訪れた場合、30～50人が座れる中庭がありました。
①通常、高い地位を持つ客は、ダイニングで最高の料理を食べていました。
②一方で、地位の低い客や客の召使いたちは、中庭でもっと質素な食事をとっていました。

コリントの教会は、おそらくこのような家で礼拝をしていました。集まる際に、
①夕食をとってから、その後に「主の晩餐」を行うか、もしくは
②聖餐のパンを裂き、その後夕食をとり、最後に聖餐の杯を取っていました。食事はホストが提供する場合もあれば、持ち寄り形式（ポットラック）の場合もありました。

問題は、当時裕福なクリスチャンがまずダイニングで最高の食事をしていたことです。その後に、貧しいクリスチャンが中庭で残り物や質素な食事を食べました。裕福な人々は、それが当然のことだと感じていました。なぜなら、召使いたちと交流する習慣が元々なかったからです。

パウロが言っているのは、神の民の中に上流階級など存在しないことです。私たちは一つの共同体で、全員、恵みによって救われた罪人です。主の晩餐を守り、礼拝に集うことで、この真理を思い出し、互いに愛をもって励まし合うのです。そうでなければ、私たちが教会として集まる理由はありません。

(3)主の晩餐
パウロは23-26節で、こう説明します。
「私があなたがたに伝えたことは、私自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りを献げてそれを裂き、言われました。『これは、あなたがたのための私の体である。私の記念としてこのように行いなさい。』食事の後、杯も同じようにして言われました。『この杯は、私の血による新しい契約である。飲む度に、私の記念としてこれを行いなさい。』だから、あなたがたは、このパンを食べ、この杯を飲む度に、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。」

・最後の晩餐で、イエスはパンを裂き、こう言われました。「これは、あなたがたのための私の体である。私の記念としてこのように行いなさい。」このパンはイエスの「自己犠牲の愛」を思い出すためにあります。
・イエスは杯を取り、こう言われました。「この杯は、私の血による新しい契約である。飲む度に、私の記念としてこれを行いなさい。」この杯は、イエスの血による新しい契約を思い起こすためにあります。

①神がイスラエルの民に十戒を与えたとき、雄牛の血によって旧約の契約が確立されました。もし律法を守れば、永遠に神の民であり続けることができるという契約でした。しかし、彼らは律法を守れませんでした。
②今や、イエスの血によって新しい契約が確立されました。もし私たちがイエスを主と救い主として受け入れるなら、罪は赦されます。そして私たちは永遠に神の民として変えられるのです。

数週間前に学んだように、私たちが愛する人の写真を見てその人のことを考えても、相手は私たちが相手のことを想っていることを知りません。しかし、私たちが主の晩餐や礼拝でイエスを想うこととまったく異なります。

私たちはイエスのことを想うと、イエスとの関係がより親密になります。イエスはそこにいて、私たちの思いを深く理解しています。私たちがイエスの愛、十字架、死について思い起こし、イエスのように自己犠牲的に愛することに専念すると、神は私たちをイエスの性質を持つようにと変えてくださいます。

私はある青年を知っています。ある日、彼はジムに行き、体を鍛えることを決意しました。トレーナーの指導を聞き、毎日メニューをこなしました。数か月後、彼の体は大きく変わりました。

同じように、私たちが主の晩餐や毎週の礼拝でイエスとの交わりに入り続け、イエスについて思い起こし、愛することに専念すると、時間が経つにつれて変えられ、互いにイエスの自己犠牲的な愛を示せるようになります。しかし、コリントの教会は失敗しました。彼ら

の集まりは、良い結果ではなく、悪い結果を招いていたのです。

(4) 主の体と血に対して罪を犯してはなりません
27節「従って、ふさわしくない仕方で、主のパンを食べ、主の杯を飲む者は、主の体と血に対して罪を犯すことになります。」

問題は、彼らは「ふさわしくない仕方」で食べたり飲んだりして、イエスとの親密な交わりがなく形骸化されていたのです。それは例えば、…
①ジムに行って、一度もダンベルを持たず、ずっとスマホを見ているようなものです。
②または、礼拝に出席していても、イエスの愛、十字架、そして死について深く考えず、神の民を愛することに専念しないようなものです。そうしてしまうと、私たちは何も変わりません。イエスの体と血を軽んじ、冒涜してしまいます。

28－32節「人は自分を吟味したうえで、そのパンを食べ、その杯から飲むべきです。主の体をわきまえないで食べて飲む者は、自分に対する裁きを食べて飲むことになるのです。あなたがたの間に、弱い者や病人が大勢おり、また死んだ者も少なくないのは、そのためです。もし私たちが、自分をわきまえていれば、裁かれることはなかったでしょう。しかし、私たちが裁かれているのは、主によって懲らしめを受け、この世と共に罪に定められることがないためなのです。」

もし私たちが主の晩餐や礼拝を形だけで行い、イエスの死を認識せず、イエスとの親密な交わりを通して変えられることを求めなければ、イエスは私たちを愛しているがゆえにしつけします。しかし、パウロは言うには、それを避ける方法はあります。

31節でパウロはこう言います。「もし私たちが、自分をわきまえていれば、裁かれることはなかったでしょう。」
これこそが、パウロが私たちに伝えようとしていることです。私たちは他の人が劣っている―人格、社交性、地位、才能、知識―と思い、関わる価値がないと考えてしまうかもしれません。もしくは、自分とは違う―民族、社会的階級、興味、能力―がために、関わらないかもしれません。

しかし、教会に来るのは、単に主の晩餐や礼拝に出席するためだけではありません。
①イエスの愛、十字架、イエスの死について深く思い巡らす必要があります。そうすると、私たちは次第に気づきます。イエスが死なれたのは、まさにこうした高慢な心、考え方、そして兄弟姉妹への愛の無さのためだったのだ、と。
②自分とは違う人たちを無視し続けるのではなく、神が私たちの周りに置いてくださった兄弟姉妹を愛することに専念しましょう。そうすれば、神が私たちを裁き、しつけする必要はなくなるでしょう。

33-34節「私のきょうだいたち、こういうわけですから、食事のために集まるときは、互いに待ち合わせなさい。空腹の人は、家で食事を済ませなさい。あなたがたが集まることによって裁きを受けることにならないためです。その他のことは、私がそちらに行ったときに決めましょう。」

言い換えると、パウロが言いたいのは、私たちが礼拝や主の晩餐に参加する際に、…
①自分のグループだけと交流したり、ただイエスの死や自分の罪について黙想したり、ただ自分が礼拝したりしないようにと言います。これらは重要ですが、究極の目的ではありません。
②本当は、「互いに待ち合わせ(welcome)」ないといけません。自分とは違う社会的地位、民族、趣味、能力を持つ兄弟姉妹と積極的に関わり、会話しましょう。

知らない人を迎え入れましょう。名前を覚え、会話してください。一緒にコーヒーを楽しみましょう。毎週続けてください。私たちは礼拝するために来て、形だけのために来ていません。形骸化させてはいけません。コリント教会が出来なかったことをやりましょう。悪い結果ではなく、良い結果を招くために集まりましょう。

ここにクリスチャンではない方がいるかもしれません。私たちは皆、自分とは違う人を愛するために、イエスのように愛するために、イエスの助けを必要としています。イエスを信じてください。イエスがあなたをそうできるように助けてくれます。

定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 201

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg2525jp

奉仕者募集中！

急募！

日本語訳レイアウト&印刷（女性３名募集）

英語のスキルは必要ありません。
・月１回～、土曜日16時にTBCにて作業します。
MS Word を使用してひな形に入れてレイアウトし印刷します。

*スキル：MS Word の操作ができる方。
*TBC の教会員であることが必須です。

連絡先：hiromik@tokyobaptist.org

★クラス 401
クリスチャンとして成長する
6月15日(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 301 を修了した教会員

★クラス 402
キリストの伝え方
6月29日(日)1:00pm – 4:00pm
場所: カンファレンスルーム
参加条件: クラス 101 を修了した教会員

★クラス 101
教会員になるためのクラス
9月7日(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: どなたでも

全クラス申し込み：https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu